

点訳通信

81号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028 (点字製作係直通)

コートを着ていると汗ばむような暖かな3月中ごろ、韮公園に出かけました。さすがに桜はまだ咲いていませんでしたが、スポーツを楽しむ人、遊具で遊ぶ子供や、池で遊んでいる人たちを見かけて、春は活動的な気持ちにしてくれるなと感じました。

この点訳通信が届くころには、桜も開花し、私たちの気持ちも華やかになっていることでしょう。

(点字製作係 おくのまり 奥野真里)



(C) WANPUG

【 休館のお知らせ 】

4月29日(火) 休館(昭和の日)

5月 3日(土) 休館(憲法記念日)

5月 6日(火) 休館(振替休日)

目次

- ◆ 触って鑑賞する『富嶽三十六景』・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆ お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 「これからも点訳とともに」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ◆ 2014年度講習会・勉強会の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

触って鑑賞する『富嶽三十六景』

点字製作係 お ば ら ふ み お 小原二三夫

皆さんもご存知の、葛飾北斎のあの有名な『富嶽三十六景』、私はこれまでにその中の「か な がわおきなみうら神奈川沖浪裏」についてだけは、点図で表わしたものと立体的に翻案したものを触ったことがありました。

昨年末、常磐大学（茨城県水戸市）のコミュニティ振興学部なかむらまさゆきの中村正之教授と学生たちのグループ（「TEAM MASA」）が、富嶽三十六景の全46作品の立体コピー図版を製作し、日本ライトハウスにもご寄贈いただきました。

中村先生は、専門は生涯学習プログラム論ですが、それとは別にながらく天文写真をされておられる方です。見えない人たちにも天文の世界を楽しんでもらえればということで、いろいろな天文写真を立体コピー図版に加工して、2008年から全国各地で「さわれる天体写真展」を研究室の学生たちとともに行ってきました。そして今回、立体コピーの技術をミュージアム資料にも応用できないかということで、山梨県立博物館より、同館所蔵の富嶽三十六景全作品の画像データを提供していただき、それを基に立体コピー図版の「さわれる富嶽三十六景」を作成しました。

この「さわれる富嶽三十六景」では、1つの原画を、絵の主要な構成要素を抽出するようにしながら4画面に分け、A4の立体コピー図版4枚セットで表しています。原画をそのまま立体コピーしただけでは触ってみてもほとんど分かりませんが、このように4つに分けられた画面を順番に重ね合わせるようにして触っていくと、絵全体をある程度触って理解できる作品がかなりあります。（私は46作品全部を丁寧に触って確かめてみましたが、20点弱くらいは解説をしてもらえば触って十分に鑑賞できるように思います）。

全作品を触ってみると、見る場所や季節によって様々に変化する富士山の姿ばかりでなく、富士山とともに描かれている当時の庶民の暮らしぶりまで伝わってくるようで、このシリーズのすばらしさを実感しました。ぜひ多くの見えない人たちにも富嶽三十六景を触って楽しんでいただきたいと思います。この立体コピー図版による鑑賞会を2月・3月・4月の第4土曜日に開催しています。鑑賞会では、水曜日の点訳ボランティアを中心に、参加者1人ずつに解説ボランティアが同席して触察による鑑賞を補助してもらっています。

それでは、立体コピー図版がどのような構成になっていて、それをどのようにして触って鑑賞するのかについて、以下の2作品について紹介します。

かながわおきなみうら
● 神奈川冲浪裏

次の4枚から成っています。

[1] 画面中央のやや右下に小さく富士山があります。(触ってみると、向って左の裾野のほうかなだらかに伸びています。) この富士山は、2枚目以降の図版でも、必ず同じ位置に同じ形であります。できるだけ富士山の位置と形を記憶しておいてもらうようにします。

* 富嶽三十六景のシリーズでは、1枚目は必ず富士山になっています。



[2] 富士山に加えて、富士山の下に2艘、左に1艘船があります。(左の船は、一部しか描かれていない。あとで大きな波に飲み込まれているためだと分かる。) ここで、富士山と船の大きさを比べてもらいます。船に比べてはるかに巨大な富士山のほうが小さく描かれているが、それは、富士山ははるか遠くに見えているのに対して、船はすぐ近くに見えているからだと説明します。



[3] 1枚目の富士山、2枚目の3艘の船に加えて、画面左側に大きな波があります。2枚目にあった左側の船は、まるでその逆巻く波に飲み込まれるように、触っただけではほとんど分からなくなっています。(ぎざぎざになっている波頭も触って確認してもらいます。)



[4] これが全体の絵です。左側の大波に加えて、さらに画面の下にも大きな波があり、手前の2艘の船まで大波が達しています。

全体としては、遠くに鎮座する富士山と、目の前の荒れ狂う波濤とそれに翻弄されそうな船、といった構図になります。遠近法によってうまく描かれ、また動と静の対比も際立っている作品のように思えます。



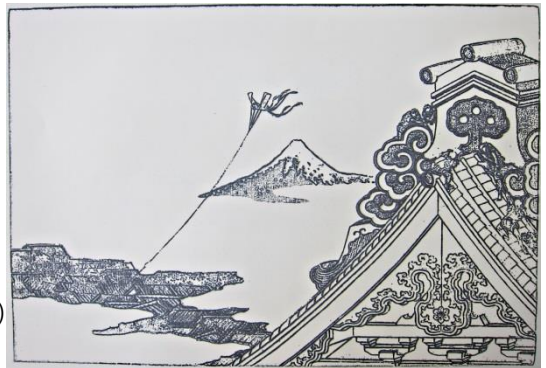
[1] 画面のほぼ中央に、富士山があります。



[2] 富士山に加えて、画面左下に、いくつも屋根が連なっています（浅草の街並みのようです）。屋根と屋根の間から糸が上にずーっと伸びていて、その先に凧があります（富士山よりも高い）。



[3] 富士山、街並みと凧に加えて、画面右側いっぱいに大きな屋根が描かれています。本願寺の屋根です。屋根の上で職人がなにか仕事をしているようです。（屋根の手前のほうの大きな三角形を触って確認してもらいます。飾りのようなものも触って分かります。なお、3・4月の鑑賞会では、この大屋根のごく簡易な紙模型を用意します）



[4] これが全体の絵です。画面左下の街並みの真ん中あたりに、高い櫓が上にすーっと伸びています。また、画面中央にほぼ水平に霞ないし雲を表す線があります（この霞のような線は、空を低い所と高い所に分けているようにも思われます）。凧や櫓は、この線よりも上まで伸びていて、その高さを感じさせます。



全体としては、中央の富士山を背景に、寺院の大きな屋根と庶民が暮らす街並み、また、低い家並みと空高くにある風と櫓が対比的に配されています。この絵は、地上のある地点から見たのではなく、本願寺の屋根近くの上空から見下ろしているような構図になっています。この絵を触って頭の中でイメージすると、なにか江戸の町の様子が思い浮かんでくるような気がします。

* * *

北斎の『富嶽三十六景』のシリーズでは、随所に遠近法が用いられ、また、しばしば霞のようなものを表す線（「すやり霞^{がすみ}」というそうです）によって、近景と遠景など、画面が分けられたりして、絵で示される空間全体を理解するのに役立ちます。また、幾何学的に整った配置や形になっているものも多く、それらは触って理解するのに適しています。

今回常磐大学の先生と学生たちが試みた、絵の構成要素ごとに順に重ね合わせるようにして触って行って絵全体を理解するという方法は、『富嶽三十六景』にはとても有効でした。私は実際に目で絵を見たことはまったくありませんが、このシリーズを触って鑑賞することで、頭の中の絵の世界は大いに広がったように思います。鑑賞会に参加された方々にも、触覚を通して各自頭の中で絵を楽しんでもらえるよう、ボランティアの方々とともに努力します。

●3月22日（土）の『富嶽三十六景』鑑賞会に参加された方々の熱い感想をご紹介します。

- ☆ 楽しかったです！ 原図をいきなり触ってもまったくわかりませんが、こうして4枚に分けてあると、よくわかります。富士山をメインに周囲の情景がいろいろ描かれていて、おもしろいから2時間続けて9作品も触ってしまいました。こんな機会はなかなかありません。
- ☆ 同じ絵を4枚に分けて触るなんて驚きでした。すごくわかりやすいです。一番印象深かったのは樽の中に富士山を見る絵です。ふだんは絵を見ることはなく、興味ももてませんでした。絵とはこんな素晴らしいものなのかと初めてわかりました。
- ☆ とってもよかったです！ 夢中になって触りました。2月・3月と続けて参加しましたが4月は都合で参加できないのが残念です。こうやってみると、やっぱり日本の風景はいいなあとしみじみ思います。

お知らせ

●4月から8人の新しい方が点訳ボランティアの仲間入り

2013年度点訳技術講習会が3月28日に修了、8人の方が点訳の基礎を修得されました。早速4月1日から点訳ボランティアとして当館で活躍していただきます。(今回は原本を受け取って数日後に参加というタイトなスケジュールです!)

先輩ボランティアの皆さま、どうぞあたたかいエールをお願いします。

以下は8人の方のお名前と活動曜日です。

火曜日：西岡貴美子 (にしおか きみこ) さん
林 さゆり (はやし さゆり) さん

水曜日：富田 京子 (とみた きょうこ) さん
本条 祐子 (ほんじょう さちこ) さん

木曜日：中野 龍子 (なかの りゅうこ) さん

金曜日：浦田登志子 (うらた としこ) さん
高橋 淳子 (たかはし じゅんこ) さん

土曜日：華崎 律子 (はなざき りつこ) さん

●今年度から土曜日も暦どおりに開館します

昨年度までは月曜日が振替指定祝日などに当たる場合、土曜日は休室させていただいておりましたが、今年度からは暦どおり開室することになりました。(本来の祝日と、夏期・冬期休館は除きます)。

これまで土曜日は他の曜日よりも活動日が少なく、ご不便をおかけして申し訳ありませんでした。今後は存分に活動していただけます。どうぞよろしくお願いいたします。

2013年度末をもって、前田美代子職員が退職いたしました。明るくてきばきと仕事をこなしてきた前田職員を送り出すのは、寂しい限りです。皆様へのこれまでの感謝の気持ちを込めて、ご挨拶させていただきます。

「これからも点訳とともに」

点字製作係 まえだ みよこ 前田美代子

ボランティアの皆様、長い間ほんとうにお世話になりました。

蔵書・楽譜や語学といったリクエスト資料・教科書などなど、多岐にわたり正確で的確な処理を短期間に、ものによってはその日のうちに仕上げていただき、頭がさかります。

思い返せば、無理なお願いばかりをしつづけてきました。にもかかわらず、一般的なことから専門分野まで、皆様から多くのことを教えていただきました。言葉に言い尽くせないほど感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

私と点訳との関わりは奉職後、元職員の故・森泰雄さんにご指導を受け、数年間はボランティアの末席に加えさせていただき、点訳本も何冊かは仕上げました。

1977（昭和52）年に奉職して37年弱になります。この間、2年ぐらいが録音製作係、最後の8年間は点字製作係で、ほとんど経理・総務を担当しておりました。でも、37年間ずっと点字製作に席を置いていたような錯覚に陥ります。

点字板・点字タイプライター・パソコン点訳・点図を経験しながら、分かち書きの難しさ、数学・理科記号、英語点訳、さわってわかりやすい点図の表し方、楽譜（まだまだ初歩です）等々、本当にたくさん勉強させていただきました。これらすべてが私の大きな財産となりました。

とは言いつつも、体力と気力が弱くなったのでしょうか、今までほどは点字に対して興味が沸かなくなりかけ、もう十分に納得のゆくまでやったかなと、退職を機にいったん点字から離れようと考えていました。でも、退職時期が近づくにつれ、寂しさ感も出て来て、求められる（？）うちは、職員の方々に迷惑が掛からない程度にお手伝いをさせていただき、これからも付かず離れず点訳とともに、と思っています。

ボランティアの皆様のご健康をお祈りいたしますとともに、これからもますますご活躍いただきますよう、心より願っております。



●2014 年度講習会・勉強会の予定

今年度、以下のように講習会・勉強会を予定しています。
募集要項等の詳細は、別途、お知らせします。

○専門点訳講習会「エーデル基礎コース」

*全2回のコースを2度行います。

1回目 6月12日(木) 13:00~15:00

6月26日(木) 13:00~16:00

2回目 7月4日(金) 13:00~15:00

7月18日(金) 13:00~16:00

○専門点訳講習会「高等学校理数系点訳コース」

全5回(隔週、水曜日) 13:00~15:00

9月3日・17日

10月1日・15日・29日

○点訳技術講習会

全20回(前期・後期各10回、金曜日) 10:00~12:00

前期 10月10日~12月19日

(10月24日は休講)

後期 1月16日~3月20日

○校正勉強会

全3回(日程は未定)

